

## オートビュー®を通じて経験した全自動輸血検査装置に求められる機能要件

オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス(株) マーケティング本部  
柳川 真

本文：本邦において 1998 年に初めて全自動輸血検査装置オート® オートビュー®（第一世代）を導入して 15 年が経過致しました。発売当時は検査担当者が実施する試験管法による検査の効率化されることを期待され、大量検体バッチ処理を自動化することを目的に大規模施設を中心に導入されました。

しかし、行政や医療環境の変化に合わせて、輸血業務の 24 時間化を実現するために日当直体制を構築することが求められたり、電子カルテ化に伴う輸血業務のシステム化が求められたりなど、輸血部門に求められることが時代によって異なってきております。

このような変化に合わせて全自動輸血検査装置に期待される要件も変わってきており、弊社では 2004 年にオート® オートビュー® Innova（第二世代）を発売致しました。第二世代においては、第一世代をお使いのお客様からいただいた様々な要望点や改善点を数多く搭載することを目的として開発致しました。

発売後につきましてもソフトウェアのバージョンアッ

プという形で様々なご要望にお答えするべく開発を行ってまいりました。このような開発コンセプトをご評価いただき数多くのオートビュー®シリーズをご使用いただいております。

本学会において、自動化とオートビュー®の歴史を全自動輸血検査装置に求められる機能要件と合わせて振り返りをさせていただきます。



オート® オートビュー® Innova(届出番号：13B3X00021000006)

連絡先：お客様サポートセンター(0120-03-6527)